

文章題テスト・小説(1)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

練習を中断して、ぼくらは秀治ひでじについて話し合った。

「あの球が必要なんだ。ぼくらのチームにはあいつが必要なんだ。」

2 ぼくが熱くなればなるほど、みんなはだまりこんだ。不良が、チームの中心のピッチャーになるという、わりきれない気持ちと同時に、今、目の前で見せつけられた剛速球ようすくにとまどっているのだった。

「だけど、ほんとに、ピッチャーとしてつかえるんですかねえ。」
と、ようやく誠まことが口を開いた。

「それは、おれとガンちゃんどで確かめるよ。——問題は、おれたちさ。おれたちが、あいつを受け入れるのかどうか、さ。」

一人一人の表情を、すばやくさぐった。みんな、まただまってしまった。

「とにかくさあ。」と、洋太君ようたがキャッチャーミットの中をのぞきこむようにして、
「すごい球だってことは、確かだよ。」

こうだもんね、と秀治の投げた球が飛んできた様子を、身ぶり以示して、
「ブーン、ドスッー」とみんなを笑わせた。

「あんな球、近くから投げられたらどうしようってぶるっちゃうけどさ。でもさ、野球やってる気はするよな。——いまんとこ、マスクもプロテクターも、かぜひいちゃってんだからね。」

「それは、いえる。」と、岬君みさきが言った。それで、だまったから、ぼくが口を開こうとしたら、岬君は、ぱつとぼくの口をおさえて、

3 「投げる時さ、あいつ、真剣けんな顔だったぜ。——うん、真剣だった。」
しばらく、一人でうんうんとうなずいていた。

ぼくは、もう、何にも言わなくてもいいんだ、と思った。自分のことでもないのに、うれしかった。

「今度は、マウンドから投げるのを見せてもらおうよ。」
と、弓削君ゆげが言った。



「ぼくら、敬遠ばかりしてたもんね。優勝するには、やっぱり、勝負かけなきゃね。」

4 弓削君のことばが結論になった。

(注) 剛速球——速くて力のある球

マスク・プロテクター——キャッチャーが身につける野球用具

敬遠——野球で、バッターとの勝負をさけて一塁に歩かせること

(後藤 竜二「キャプテンはつらいぜ」より)

1 線1「秀治について」とありますが、チームのみんなは「秀治」をどのような人物としてとらえていますか。文中から一語で書きぬきなさい。

2 線2「ぼくが熱くなれば…だまりこんだ」とありますが、「ぼく」が「みんな」の気持ちを確かめようとしている様子が最もよく表れている一文をさがして、初めの五字を書きなさい。

3 線3「ぱっと」はどのことばをくわしくして(修飾して)いますか。適当なものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 岬君は イ ぼくの ウ ロを エ おさえて

4 線3「しばらく、…うなずいていた」とありますが、どのようなことを表現していますか。最も適当なものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 自分で自分の気持ちを確かめている。 イ 自分はどうするべきなのかまよっている。

ウ 自分の本当の気持ちを無理におさえこんでいる。 エ 他人の意見に賛成している。

5 線4「弓削君のことばが結論になった」とありますが、どのような結論ですか。「チーム」、「ピッチャー」という言葉を使って、三十字以内で説明しなさい。

			20								
				10							
											30

